

「みゆき」かぼちゃという名称で 独自ブランドを

●北海道剣淵町の「ゆきこ」栽培事例

士別地区農業改良普及センター

入 沢 裕 司



「ゆきこ」をみゆきという名称で出荷

はじめに

上川郡剣淵町は地図のとおりに、北海道のほぼ中央にある旭川市より約45km北に位置する四季の変化に富み、自然豊かな町です。



気候は、道北の内陸部であるため、内陸性気候の特質を有しており、冬期の寒気は厳しく、積雪量も多い半面、夏期における温度は高く、昼夜の温度差が著しいと言えます。

剣淵町における産業の中心は農業で、主な経営形態は水稻を中心として豆、麦類の水稻・畑作の複合経営です。しかし、水稻の作付け調整のもと

で、農業所得の確保のため、馬鈴しょ、にんじん、かぼちゃ、キャベツ、ゆり根、ネギ等野菜が近年急激に作付けを増加しています。

特にかぼちゃは昼と夜との温度格差が大きいこと等から、糖度も高く、品質も良いかぼちゃができる消費地からの人気は高く、近年作付けが増加している品目の一つです。

主な作付品種は、「くり味」を中心として、「M10」「えびす」等栽培していますが、早期出荷が可能で、味も非常に良いことから、「ゆきこ」かぼちゃを平成5年に試作、平成6年から「みゆき」という名称で剣淵町の独自ブランド品種として本格的栽培を開始しています。そこで、剣淵町の「ゆきこ」(みゆき)かぼちゃの栽培事例について紹介してみたいと思います。

1 「ゆきこ」の特性について

平成6年に士別地区農業改良普及センターで実

表1 かぼちゃ品種比較試験

品種	品 種 特 性					収 穫 物 調 査													
	草 勢		花 落 ち 部 の 大 き さ		果 の 大 小	果 皮 色		総 収 量		規 格 内 収 量		1 株 当 り 着 果 個 数		規 格 別 個 数 (12 株 当 り)					
	強	弱	大	小	大	小	淡	濃	(kg/10a)	比	(kg/10a)	比	個	比	2 L	L	M	S	規 格 内
ゆきこ	3	1	2	3	1	白皮	2,398	100	2,344	100	4.3	100	0	7	36	4	47	5	
A	2	1	2	3	2,302	96	2,223	95	3.8	88	1	10	26	6	43	3			
B	2	2	2	4	1,414	59	1,327	57	2.7	63	0	1	22	5	28	4			
C	1	1	1	4	1,962	82	1,879	80	3.6	84	0	6	27	5	38	5			
D	2	2	2	3	2,399	100	2,349	100	3.7	86	1	15	25	1	42	2			
E	2	2	2	3	2,434	102	2,406	103	2.8	65	14	11	6	1	32	1			
F	3	1	3	4	2,101	88	2,075	89	3.0	70	1	16	17	1	35	1			
G	2	1	2	2	2,647	110	2,608	111	4.6	107	0	7	38	8	53	2			
H	2	1	2	4	1,844	77	1,818	78	2.7	63	0	13	15	2	30	2			
I	2	1	2	1	白皮	2,676	112	2,655	113	2.6	60	24	1	4	1	30	1		
J	2	1	2	1	白皮	2,079	87	2,079	89	3.0	70	0	16	18	2	36	0		

注) 播種6/3、定植6/20、収穫9/12
 育苗・ベーパーポット育苗(V-4Aポット)
 整枝・子づる3本仕立て 整枝月日7/11
 規格・2L:2.0~2.5、L:1.5~2.0、M:1.0~2.5、S:0.8~1.0kg/個

施した品種比較試験は表1のとおりです。

試験結果によると、「ゆきこ」は1個重は1.2 kg程度とやや小さめのM玉中心ですが、1株当たりの着果個数が多く、結果として、総収量、規格内収量とも高くなっています。

1) 果実はやや小粒だが、重いくり型品種

「ゆきこ」の果実はくり型の果型を有し、収穫時の果皮色はやや薄い淡緑色に灰白色の斑が入ります。果実の大きさはやや小さいが、比較的重く、揃いは良いと言えます。

2) 粉質で食味が良く、貯蔵性も良い

「ゆきこ」かぼちゃ最大の特徴は果肉が厚いことと、食味が良く、粉質も強いことです。また、貯蔵性も高く、年明け出荷も可能です。

3) 草勢は強く、着果性は良い

「ゆきこ」は初期の葉は小さく、ややおとなしい生育をします。しかし、定植後1か月ころからの生育は旺盛となり、草姿は強い方と言えます。したがって、過繁茂となる栽培方法は避ける必要があります。

4) 着果性は良く、収量が高い

また、近成り性で着果は極めて良く、1つるに2果以上着果します。

2 「ゆきこ」栽培の概要

「ゆきこ」かぼちゃは食味が良く、一度食べた消費者からの人気が高く、期待の持てる品種と言えます。しかし、品種としては新しく、消費者に十分に知られていないことと、果実の形質は従来のかぼちゃのイメージとやや異なる（白皮）ため、今後はいかに「ゆきこ」の良さを分かってもらうかだろうと思います。

そのためにも、「まず食べてもらうこと」であり、栽培する側も品質の良いかぼちゃを生産し、「ゆきこ」のイメージを壊さないことが大切だろうと思います。

1) 育苗

ポリ鉢育苗(12 cm ポリポット)とし、育苗日数は30～35日で、本葉4～5葉毎程度のころに定植します。

育苗は温度や水管理に注意し、がっちりとした苗に育て、徒長苗・老化苗を避けます。

2) 施肥～定植

「ゆきこ」は着果が良いため、生育後半までの茎葉の維持は大切です。しかし、草勢が強いため、極端な多肥栽培は過繁茂の原因となるため避けま

す。8月出荷の早出しを目標とするため、定植は出来るだけ早めに行い(5月中旬～6月上旬)ます。

また、定植の1週間程度前にはマルチを行い、地温を十分に確保してから定植し、定植後は直ちにトンネルまたはパオパオ等で被覆し、霜から守ります。

定植は定植後の苗の植え傷みが生じないように丁寧に行います。

栽植密度は畦幅3 m、株間70 cmの1条植え、または畦幅6 m、株間70 cmの2条植えとし、10 a当たり470株程度を標準としています。

「ゆきこ」は草勢が強く、着果性も良いため、生育後半までの茎葉の維持は収量に大きく影響し



写真1 「ゆきこ」の生育状況（7月上旬）



写真2 着果性の良い「ゆきこ」かぼちゃ



写真3 かん水対策も実施

大切です。そのため、つるが伸びてからでも確実に防除が行えるよう、必ず防除通路を設置します。

また、干ばつ時の肥大性を高めるため、かん水対策をとっておくことが望ましいと言えます。

3) 定植後の管理

トンネル栽培では温度管理に注意し、ベタがけは6月20日ころを目安として除去します。

定植後2週間程度たつと、つるもかなり伸びるので整枝を行います。

整枝方法は早出し出荷と収量性を確保するため、親づると子づるの2本を残す3本仕立てとし、その際、第1葉から発生する子づるは生育が劣るため除去します。

わきづる(孫づる)は1番果の着果節位までは除去し、極端に低節位(5~7節以下)に着果したかぼちゃは肥大が悪く、規格外になりやすいため摘果します。

「ゆきこ」は肥培管理には注意が必要で、後半の肥料切れを避けるために追肥を行うか、基肥に緩行性肥料を用います。

また、うどんこ病等の防除は適切に実施し、茎葉を最後まで保たれるようにします。

4) 収穫について

収穫は着果後40~45日程度を目安としますが、気象条件により変わるため、果皮が品種特有の色(やや白色を帯びてくる)となったときに収穫を行い、未熟かぼちゃの混入は絶対に避けます。

そのため、かぼちゃ生産者は圃場に「看板」の設置を実施し、管理・適期収穫の目安としています。収穫は数回に分けて行い、その際、なるべく茎



写真4 看板設置による適期作業の推進



写真5 「ゆきこ」の荷姿

葉を傷めないように注意します。

収穫後は風通しの良い日陰の場所でキュアリングをしっかりと行い、味の良い完熟かぼちゃの生産に努めています。

おわりに

剣淵町の野菜振興の歴史は浅く、剣淵農協かぼちゃ生産部会は視察研修・栽培講習会・現地研修会等を通じ、栽培技術の習得と良品質の生産に部会員全体でレベルアップを目指し、取り組んでいます。

そういう消費者に喜ばれる物を生産したいという部会員全体の気持が、かぼちゃ圃場での看板の設置に見られるよう強い団結を生んでいます。

それら着実な経験が生産者の自信となり、また、市場・消費者からの強い期待が寄せられ、剣淵町のかぼちゃ生産は作付け面積は100haを越え、着実に増加してきています。